

# 日々の善行

宗教関係代表者会議構成員 上道小太郎

私は、決して敬虔な信者ではありません。これまでの人生の中で、宗教的な啓示を受ける機会は何度かありました、「家の宗教」として仏壇を守り、先祖の命日には墓参りをし、新年には初詣をするという、ごく平凡な市民です。そんな私が、教育規定に謳われている「明確な信仰」に到達しているかと問われると、はなはだ心もとないのです。30数年前、スカウトとして「ちかい」をたてて以来、ある意味で「信仰とは何か」を考え続けてきたような気がします。

しかし、こんな私でも、最近ちょっと気になります。この頃、スカーフの先を結んだスカウトをほとんど見かけなくなりました。私たちがスカウトの頃は、制服を着て集会に行くときに、必ずスカーフの先を結んでいました。これは何か良いこと(善行)をした時、その結び目を解くためです。結び目を解いたスカウトを見ると(もしかしたら、そのスカウトは結ぶのを忘れたのかもしれません…)、「あっ、ボクは今日はまだ良いことをしない!!」と気が付くのです。「日々の善行」というスローガンをいつも思い起こし、善行を実践するための方法として、多くの隊で行われていたように思います。

「日々の善行」は、「ちかい」と「おきて」の実践の第一歩として「感謝の心を持ち」、そのお返しとして「毎日ひとつ善いことをする」ということです。幼いうちから、「日々の善行」のように分かりやすく実践しやすいことを毎日少しずつ積み重ねてこそ、自然と「感謝の心」が身に付くのではないでしょうか。私は、そういう「心」を耕すことなしに、いきなり「明確な信仰」にたどり着くとは思えません。

「どのように信仰を奨励するのか」と机を囲んで議論をする前に、まずリーダーである私たちが、基本に戻って「日々の善行」を実践し、その姿をスカウトに示すから始めませんか? 時代が変わり、社会が変化しても、「日々の善行」は、私たちを「神へのつとめ」にいざなう大切なスローガンだと思います。

## 私のおすすめの一冊



『夢にむかって飛べ』  
宇宙飛行士 エリソン=オニヅカ物語

毛利恒之 著 講談社 1,160円(税別)

1986年1月24日、エリソン=オニヅカ宇宙飛行士を乗せたスペースシャトル「チャレンジャー」は、打ち上げ直後に大爆発を起こし、フロリダの大空に消えた。彼は、ハワイの日系3世。入隊後4年でイーグルスカウトに進級したボーイスカウトで、敬虔な仏教徒だった。児童書だが、大人にも十分読み応えがある。絶版なので図書館で探してください。